

茶室とは何か？ - 昨年、待庵という茶室が朝鮮の住居に極めて類似することが示された。日本文化の粋とされる「茶の湯」の日本的なるものとは何かという疑問が提起される。①茶室の位置は、多くの場合、母屋の北東に作られる。この方角は鬼門とされ忌むものである。何故そのような所に作るのか。②茶室は市中の山居と呼ばれ、露地と呼ばれる庭が作られるが、何故市中に山居を作るのか。③躰口は何故狭く作るのか。④炉の中の五徳は元々、鉄輪と呼ばれ輪を上に爪を下に置いて使うものである。それを逆にして使うのは能の「鉄輪」にある呪詛のような異常な場合でしかなかった。何故、逆転させたのか。

方法 利休時代の方位の考え方(気学)及び、宗教の宇宙論を基準として解明する。

結果 ①茶室の位置は意図的に鬼門に作られた。当時は方位の学である気学についての常識があった。鬼門は死を意味するだけでなく、「キ」の音から生門、生きる門、貴門、貴い門、氣門で浩然の気を養う門であると理解され、茶室が日常的(ケ)の場とは異なる特別な(ハレ)の場であることを示すためである。②茶室の位置が丑寅の位置にあれば、そこへ行く道は北西、即ち、戊亥の方角となる、これは秋を示す角度です。この秋の季語に白露など露を示す。方角から、露の道として表現される。茶室の位置は立春である。露地に置かれる留め(止め)石は縄の使い方をとらから碇に類似する。方位を重視するので海路であろう。山居は山という結界が囲む聖なる場(蓬萊山・島)を示す。③宗教的な謙虚、胎内と再生を意味する。舟付のくぐりとの類似は別世界への乗物を暗示する。④易の陰陽五行と仏教の三輪・地水火風空という宇宙の縮図を茶室が統一し表現するためである。